

人口減少対策に移住体験

食を活かし地域活性化

輝くふるさと常任委員会（鈴木満委員長）は、4月25日に宮城県気仙沼市を視察。東日本大震災からの復興状況やスローフードの取り組みを視察し、今後の町づくりの参考のため研修しました。

海を敵視せず喜ばず

震災復興

気仙沼市は宮城県の最北東端に位置する、カツオの水揚げやフカヒレ生産が日本一の漁業のまちです。東日本大震災では死者1043人、行方不明者214人、住宅2万6124棟の被害がありました。

震災復興計画を作るに当たり、海と生活してきた気仙沼の自然観と、次世代への理念を超えた観念を「海と生きる」とメッセージ化しました。

復興計画の目標を「津波死ゼロのまちづくり」、「早期の産業復活と雇用の確保」、「職住復活と生活復興」、「持続発展可能な産業への再構築」、「スローでスマートなまちづくり」、「地域に笑顔あふれるまちづくり」と定めて復興事業を推進しています。

地域の課題解決なくして真の復興はないと考え、起業支援や産業再生による雇用の創出、会計特殊



市の取り組みを説明する小野寺震災復興・企画部長

出生率の向上を目指した結婚・子育て支援施策、空き家バンクや地域おこし協力隊などの移住・定住・U・I・Jターン施策など、若者の流出による人口減少対策にも取り組んでいます。

地域の豊かさに気付くスローフード

食を通したまちづくりとして、平成15年3月に国内初となる「気仙沼ス

ローフード」都市宣言をし、資源である食を生かしながら地域活性化を図っています。スローフード運動とは、伝統的な食材や料理と質の良い食品を守る、質の良い素材を提供する小生産者を守る、子どもたちを含め消費者に味の教育を進めるものです。小学生から高校生までを対象としたプチシェフコンテストの開催、海洋環境アドバイザーによる小学生への海の環境教育の実施、スローフードフェスティバルの開催などを行っています。

メカジキの水揚げ日本一を誇ることから、「気仙沼メカジキ」のブランド化、メカしゃぶ、メカすきなどの商品開発、メカジキ動画を作成して情報発信、大消費地である首都圏でのPR活動などを行っています。

輝くふるさと常任委員会（鈴木満委員長）は、6月17日から19日、北海道鹿部（しかべ）町で移住体験の取り組みを、福島町で議会改革の取り組みを研修し、町の課題の解決策を探りました。

移住を短期間お試し

鹿部町

鹿部町（人口3932人）では、人口減少対策について研修しました。町は、農家は一戸もなく漁業のまちであり、昭和48年に大和ハウス工業がリゾート事業で鹿部町に進出、分譲地販売を開始。主

に関東、関西から定年退職後移住し、平成31年3月末で292世帯、532人が住民登録されました。その効果で人口減少に歯止めがかかった時期もありましたが、近年はリゾート開発した地域でも高齢化が進んでいます。

町では大和ハウス工業と連携し、鹿部リゾート地の別荘を利用したお試し住宅



リゾート地の別荘を利用したお試し住宅

内の空き別荘をお試し住宅として一定期間、生活体験のために貸し出す取り組みをしています。今後は、若い世代の移住者確保に取り組みます。

投票日を平日に

福島町

福島町議会は二つの常任委員会で議事が運営されています。投票率の向上と投票料の経費の削減を図ることを目的に議会



福島町役場で議会改革の説明を受ける議員

が町選挙管理委員会に要望し、町長・町議会議員の選挙が平日に投票票が実施されています。多くの自治体が日曜日に投票票が実施される中、町民から苦情は無いのかとの問いに、期日前投票を有効活用して、特に問題はありませんといいことでした。

議員定数については、10人を下回らない人数を確保することが大切であるとの話がありました。